

#### IV. 大学が使命・目的に基づいて独自に設定した基準による自己評価

##### 基準 A. 地域連携

##### A-1 大学が持っている人的資源の活用と社会への提供

##### 《A-1 の視点》

##### A-1-① 大学が持っている人的資源の活用と社会への提供の現状

##### (1) A-1 の自己判定

基準項目 A-1 を満たしている。

##### (2) A-1 の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

##### A-1-① 大学が持っている人的資源の活用と社会への提供の現状

本学では、平成 25（2013）年度に犬山市及び小牧市などの周辺自治体、他大学ならびに犬山商工会議所及び小牧商工会議所といった地域経済団体、地域住民組織との交流や連携を通じて地域貢献を果たし、かつ、本学学生及び教員に教育及び研究の機会を提供することを目的として、「地域連携センター」を創設し、地域連携を推進している。

地域連携センターは、各学部選出委員や委員会事務局担当者、外部人材を含む学長任命委員によって構成される「地域連携推進委員会」を統括し、本学全体が有する人的資源による地域貢献活動の調整を行っている。また地域連携センターは、周辺自治体や商工会議所等と密接に連携・調整を図ることにより、行政の各種委員やイベント行事に本学教員を推薦するなど、人的資源の社会提供を行っている。平成 27（2015）年 5 月 1 日現在、大学が立地する犬山市と 22 事業、また、隣接する小牧市と 10 事業で連携を行っている。具体的には、本学教員が専門特性を活かしての審議会委員への就任や、学生による「学習チューター制度」等を活用したボランティア活動等を行っている。さらに、地域連携センターは、周辺自治体や地域住民とともに地域課題の解決に向けたイベントや学習会の開催も行っている。平成 26（2014）年度は、犬山市城下町の今とこれからの考える市民主体による「まちづくりシンポジウム」を犬山祭保存会、犬山まちづくり株式会社等、地域コミュニティ組織や第三セクターと企画・主催した。

本学における地域連携活動に関しては、これらの地域連携センターによる活動のほかにも、「学術研究センター」による活動及び「臨床栄養センター」による活動を挙げることができる。「学術研究センター」は、独自の公開講演会活動として、犬山市と提携して本学の教員が講師となる「犬山オープンカレッジ」を年 4 回開催している。講演者の専門性を生かしながら多岐にわたる話題を取り上げている。また「臨床栄養センター」では、地域住民を対象とした「いきいき栄養・健康サポートプロジェクト」を年 4 回（前期・後期 2 回ずつ）実施しており、身体計測や測定値に基づいての栄養相談等を行っている。

##### (3) A-1 の改善・向上方策（将来計画）

大学による社会貢献をさらに進めるためには、大学間において一定の組織を形成したうえで、各大学が有する限られた人的資源を大学間において共有することが重要である。したがって、地域連携センターでは、周辺自治体、商工会議所及び周辺に立地する大学・学

## 名古屋経済大学

部へ連携を呼びかけ、「北部尾張地域大学コンソーシアム（仮称）」の設立へ向けた活動を進める。

また、犬山市及び小牧市との地域連携のさらなる進展を図るために、「犬山オープンカレッジ」の企画及び内容について犬山市との協議を行うなど、受講者に興味や関心を持ってもらえるようにするための取組みを行うほか、小牧市が行っている生涯学習事業への参画に係る取組みを行うことを検討する。

さらに、教員個人や各学部、部局で取り組まれている地域連携事業については、学生の教育効果と地域貢献を目的としてさらに発展させるとともに、新しい事業を展開する窓口としての機能を十分に発揮できるよう、地域連携センターの組織体制の整備を行う。

【資料 A-1-1 名古屋経済大学・名古屋経済大学短期本学部地域連携推進委員会要綱】

【資料 A-1-2 地域連携センター 連携事業一覧】

【資料 A-1-3 まちづくりシンポジウムに関する資料】

【資料 A-1-4 犬山オープンカレッジに関する資料】

【資料 A-1-5 いきいき栄養・健康サポートプロジェクトに関する資料】

【資料 A-1-6 学習チューターに関する資料】

【資料 A-1-7 北部尾張地域大学コンソーシアム（仮称）に関する資料】

### A-2 大学が持っている物的資源の活用と社会への提供

#### 《A-2 の視点》

#### A-2-① 大学が持っている物的資源の活用と社会への提供の現状

##### (1) A-2 の自己判定

基準項目 A-2 を満たしている。

##### (2) A-2 の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

本学の地域連携に関連する本学の物的資源としては、図書館、体育施設及びプラザⅡならびにスクールバスがある。

図書館では、地域住民その他の学外者に図書館利用証を発行した上で、図書の閲覧・貸し出しを行っており、過去3年間における学外者の図書館利用者数は、平成24年度3,274名、平成25年度3,712名、平成26年度3,192名であり、貸出数は、平成24年度1,126名、平成25年度1,493名、平成26年度1,241名である。グラウンド、テニスコート及びゴルフ練習場などの体育施設については、本学学生の授業や課外活動に支障がない限り、地域住民や外部団体に無料で貸し出しを行っており、過去3年間における利用許可件数および利用者数は、平成24年度37件/3,029人、平成25年度71件/7,610人、平成26年度181件/10,111人である。なお、平成25（2013）年度より犬山市との産官学連携協定推進事業の一環として「名古屋経済大学カップスポーツフレンドシップ事業」に取り組み、本学グラウンドを活用して市内六つのサッカースポーツ少年団から8チームが参加し、対抗戦と本学学生との交流を行った。

また、平成25（2013）年度及び平成26（2014）は、犬山市商工会議所主催「犬山市産

## 名古屋経済大学

業振興祭『わいわい犬山フェスティバル』と本学大学祭の同日開催に際して、産業振興祭メイン会場である犬山市民文化会館とキャンパスの間を大学スクールバスによるシャトル運行を行い、市民の利便性とイベントの相乗効果を図った。平成 27（2015）年度においても同日開催へ向けた調整・連携を予定している。

### (3) A-2 の改善・向上方策（将来計画）

本学における施設については、図書館を除き、施設貸し出しに関する規程は設けられていないのが現状であることから、学外者による本学の施設利用に係る規程を整備する。あわせて学外者の施設利用を一層促進すべく、ホームページ上で情報提供を図っていく。

また、市民活動団体等からの施設貸し出しに係る依頼が増加傾向にある一方、授業及び学内行事の予定との重なりにより、学外者からの貸し出しの依頼に十分応えることができていない状況にある。授業及び学内行事を優先することは当然であるが、本学の地域貢献における一つの手段として本学施設の社会提供を進めるためにも、学外者が本学施設を利用しやすくするための仕組みを構築する必要がある。その方策として、学外者の本学施設の利用の可否及び日程をホームページにおいて周知することを検討し、平成 27（2015）年度からの実施を目指す。

【資料 A-2-1 図書館パンフレット】

【資料 A-2-2 施設利用（学外者）に関する申込様式】

【資料 A-2-3 名古屋経済大学カップに関する資料】

【資料 A-2-4 「犬山産業振興祭」・「名経祭」パンフレット】

## A-3 教育研究活動を通じた社会貢献

### 《A-3 の視点》

#### A-3-① 教育研究活動を通じた社会貢献の現状

##### (1) A-3 の自己判定

基準項目 A-3 を満たしている。

##### (2) A-3 の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

本学における教育研究活動を通じた社会貢献に関し、授業を通じた社会貢献（下記①～③）とその他の活動を通じた社会貢献（下記④～⑧）とに大別することができる。

##### ①体験型プロジェクト

平成 25（2013）年度以降の入学生を対象とした「体験型プロジェクト」では、近隣自治体や小学校と連携し、地域社会貢献を通じた学びの機会を提供している。主だったものとしては「小学生登下校時の見守り・支援」や、「通学路の安全・安心マップづくり」、「放課後課外授業の見守り・支援」等が挙げられる。

##### ②地域調査（経済学部開講科目）

## 名古屋経済大学

本学経済学部の開講科目である「地域調査」では、平成 22 (2010) 年度から 25 (2013) 年度に楽田倉曾地区において防災関連の取組みを行ったが、その過程で平成 24 (2012) 年 2 月に、災害時の要援護者支援の仕組みづくりに向けた実証実験を行った。具体的には市役所、市社会福祉協議会、コミュニティ推進協議会、自治会、地区住民をはじめ災害関係の NPO、ボランティア組織との協働により、授業の調査で得た情報に基づき、スタンドアローン型マップシステム（インターネットが使えない環境でも、各端末に蓄積されたデータを基に新たな情報を保存し、インターネットが回復した後に、これを共有できるシステム）を用いて、災害時の情報共有の仕組みを検証した。なお、この実験には楽田地区コミュニティ推進協議会による資金提供、防災科学研究所による資金助成があった。

また、平成 26 (2014) 年度における「地域調査」の授業においては、地域の要望に基づき、大学に近接する西楽田団地における防災問題をテーマに取り組んだ。授業では要援護者・支援可能者、災害時備蓄品、防災訓練等に関するアンケート調査及び団地住民とのワークショップ、それらを取りまとめた成果報告会を行った。

### ③地域情報論等（経営学部開講科目）

経営学部の開講科目である「地域情報論」では、学生が地域の「道」を実地調査・分析を行い、地域情報を集積している。集積した情報は本学ホームページにおいて公開し、地域住民との情報共有化を図る方向で授業を進めている。また「地域産業論」及び「基本経営学」の授業では、商工会議所や地域企業と連携し、経営者を講師に迎えて講演会形式の授業を実施し、地域産業の理解を促進する教育を主眼においている。

### ④経済学部学生研究室・地域政策チームの活動

経済学部学生研究室・地域政策チームでは、地域コミュニティ組織と連携し、地域資源を活用した地域活性化の取組みについて学習・研究しており、それらの活動成果を「犬山市産業振興祭『わいわい犬山フェスティバル』」、「こまき産業フェスタ」（小牧商工会議所主催）や「市民活動祭」（小牧市市民活動センター交流促進事業）、「名古屋市消費生活フェア」（名古屋市主催）等に継続的に出展し、研究成果報告を行うとともに、WebGIS 操作の体験コーナーを設けている。なお消費生活フェアへの出展は、名古屋市消費者啓発事業の事業委託を受け、平成 25 (2013) 年度については地域政策チームと経済学部のゼミが共同で行った調査研究の成果発表である。

### ⑤学習チューターの派遣

本学においては、小牧市子ども・子育て支援事業等への参画活動を行っている。また、行政のニーズに応じて「学習チューター」を派遣し、将来教員を目指す学生が取り組んでいる。さらに、近隣小学校より特別支援学級の子どもへの指導要請があり、取組みを進めているところである。

### ⑥料理メニューコンテストの主催

人間生活科学部管理栄養学科では、犬山市の広報誌への健康レシピ・リレーを毎月掲載している。また、同じく犬山市の依頼を受けて「料理メニューコンテスト」を主催している。

### ⑦海外旅行者への通訳における協力

学務総合センターの留学生支援室は、平成 26 (2014) 年度に国際交流イベント及び地域観光協会等と協力・連携した活動を中心に 12 事業に取り組み、ベトナムや台湾からの旅行者の通訳に留学生が積極的に協力するなどの活動を行った。

⑧地域活性化シンポジウムの開催

他大学との連携事業として、名城大学都市情報学部及び市民活動組織と共同で、犬山市城下町の地域活性化シンポジウム（「ライン湯と南まちを見る・知る・語る―犬山・ライン湯の保存と利用を願う展示とトークショー」）を開催した。

**(3) A-3 の改善・向上方策（将来計画）**

「体験型プロジェクト」及び「地域調査」の講義科目ならびに地域連携センターが行う事業においては、今日的な情勢や利便性を追求するため、WebGIS（インターネットやイントラネット上でWebブラウザを通じてGIS（地図情報システム）を利用可能にする仕組みのこと）を通じて調査研究やサービス提供を行うことに力を入れている。これまではNPOとの連携を通じて情報・サービス提供、技術指導を受けてきたが、今後は教育課程を通じた内部人材の育成・確保が重要である。周辺大学との連携も視野に入れつつ、本学に適した人材育成・確保体制を整備していく。

本学経済学部学生研究室・地域政策チームの活動の質・量的向上のためには、メンバーの人員増員が必要である。また、これまで活動の紹介・報告をする機会を積極的に作ってこなかった反省に立ち、上記のような地域で開催される様々なイベントへの出展を通じて、地域社会への研究成果の還元を通じた結びつきをより強くしつつある。今後は、学内外へ向けた活動紹介・報告にいつそう力を入れるとともに、消費生活フェアの取組みにみられるような、地域関連の学習・研究をテーマとしているゼミとの連携を拡げることなどを通じて、メンバー増員に努めるとともに、地域社会の抱える課題を交流の中から発見し、調査研究を通じた貢献に努めていく。

他大学との連携・協働については、前述した「北部尾張地域大学コンソーシアム（仮称）」設立へ向けた検討を進めるとともに、単位互換や共同研究・イベント開催など、現状で可能な範囲や課題においては率先して連携の取組みを強化していく。

平成 27（2015）年度内に、学内に地域研究を行う研究会を組織し、研究内容を地域貢献に活かす取組みを促進していく。

【資料 A-3-1 シラバス（地域連携に関連する科目）】

【資料 A-3-2 「地域調査」ワークショップ、成果報告会に関する資料】

【資料 A-3-3 経済学部学生研究室、地域政策チームに関する資料】

【資料 A-3-4 学習チューターに関する資料】

【資料 A-3-5 料理メニューコンテストに関する資料】

【資料 A-3-6 国際交流イベント及び地域観光協会との連携事業一覧】

【資料 A-3-7 「犬山市城下町地域活性化シンポジウム」に関する資料】

**〔基準 A の自己評価〕**

各基準項目に関する上記の記述を総合的に判断し、基準 A 全体についても要件を満たしていると判断する。